はぎのまえ・いっぽんぎ

萩前・一本木遺跡現地説明会

調査地周辺航空写真（東を望む）
（平成 23 年 5 月 20 日撮影）

平成 23 年 8 月 20 日

高松市教育委員会

1　萩前・一本木遺跡について

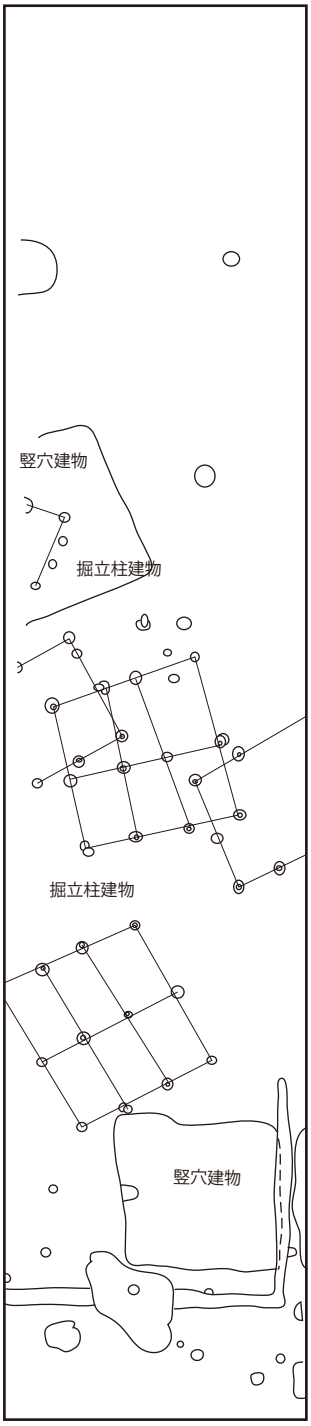
萩前・一本木遺跡は，新病院建設計画に伴い，平成 20 年度に試掘調査を高松市教育委員会で実施した結果，発見された遺跡です。

それまでは，この地域に遺跡があることは知られていませんでしたので，新たに小字名をとって，萩前・一本木遺跡と呼ぶこととなりました。

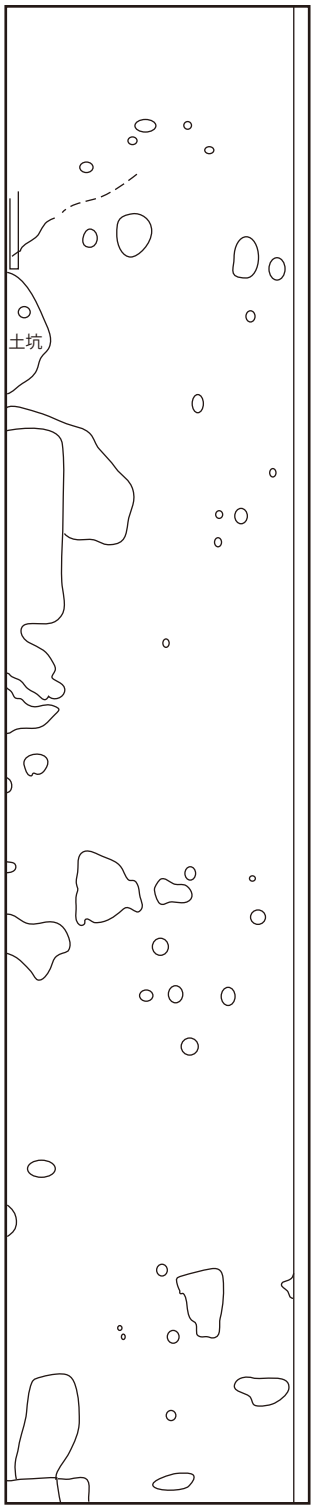
発掘調査は，病院や付属の建物，調整池，道路部分を対象に，平成 23 年 4 月から開始しました。これまでに，第 1 調査区～第 6 調査区までを調査しており，萩前・一本木遺跡の様相が次第に明らかになってきています。

今回の現地説明会では，第 3 ・ 4 調査区について，調査成果を公開させていただきます。

第 1 図　調査区配置図

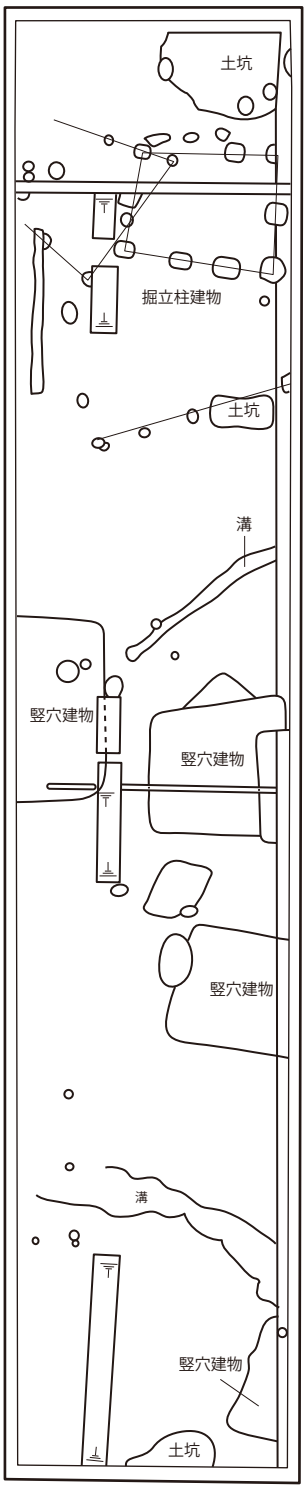


第 1 調査区

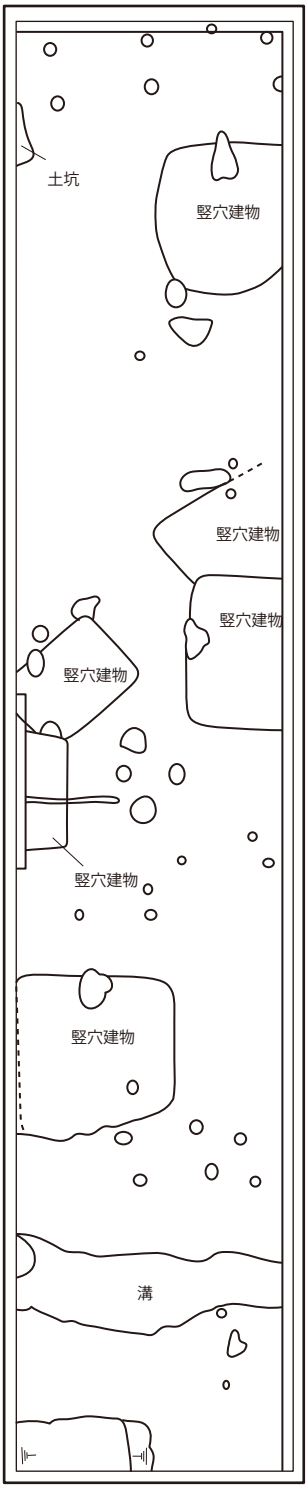


第 2 調査区

写真 1　第 4 調査区 竪穴建物調査風景



第４調査区



第３調査区

２　調査成果

萩前・一本木遺跡は，第２調査区の土坑から古墳時代中期（約 1,600 年前）の甕（かめ）が出土していることから，このころから集落の形成が始まったと考えられます。

集落が最も隆盛するのは，古墳時代後期～飛鳥時代（約 1,500 ～ 1,400 年前）で，今回の調査で検出した竪穴建物や掘立柱建物の大部分は，この時期の遺構と考えられます。

竪穴建物は，平面形が正方形～長方形で，一部の建物では竈（かまど）をもつ構造になっています。建物は重複しているものもあり，建て替えが行われたと考えられます。

この他に第３・４調査区で飛鳥時代（約 1,350 年前）の溝を検出しました。溝からは土器が多く見つかりました。

また第４調査区では大型の柱穴で構成される掘立柱建物を検出しました。柱穴は長辺約 70 ㎝，短辺約 60 ㎝の長方形に掘られています。柱穴の形態から，奈良時代（約 1,300 年前）の可能性が考えられます。この建物の周辺からは，ガラス玉が出土しています。

遺物は，須恵器の杯身（つきみ）・杯蓋（つきふた）・高杯（たかつき）・壺（つぼ）・甕（かめ），土師器の壺・甕・杯・高杯，石器，鉄器，ガラス玉などが出土しています。

写真２　第４調査区　溝　遺物出土状況

写真３　第４調査区　ガラス玉出土状況

3　遺跡の評価

高松市内で古墳時代後期から奈良時代にかけての集落が発見されることは珍しく，古墳時代後期では，空港跡地遺跡（林町）や太田下須川遺跡（太田下町）が，奈良時代では正箱遺跡（檀紙町）など，数例を数える程度です。

萩前・一本木遺跡は，古代の国道にあたる旧南海道跡が近接しているうえに，大型の建物跡や地方では珍しい土器が出土していることから，重要な施設がこの地域に存在した可能性も考えられます。

今回の調査は，仏生山地域で初めての大規模なものです。これから調査が進むにしたがって，この地域の歴史を知るうえで重要な知見が得られる可能性があります。

今後も，萩前・一本木遺跡の集落の広がりや当時の生活などを明らかにするために，調査を行っていく予定です。

写真４　第１調査区　全景（南から）

写真５　第２調査区　全景（北西から）

写真６　第４調査区　竪穴建物（北東から）

写真７　第４調査区　竪穴建物（北西から）